

合同

No. 463

「主は振り向いて」

日本キリスト合同教会教師

坂井 一富

「主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、『今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう』と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた」(ルカによる福音書22章61～62節)。

「主は振り向いてペトロを見つめられた」はルカによる福音書だけにあります。「振り向く」は、向きを変える、振り返る、立ち返ることで、次の動作を強調します。主イエスは、何もおっしゃらずに、顔をペトロに向けてただ見つめられました。来るのを待っておられたのでしょうか。言葉を交わせばすぐに捕えられます。ペトロは心で「主よ」と叫び見つけました。主イエスがうなずかれた姿がわたしの目に浮かびました。なにを伝えられたのでしょうか。

「ひるがえって(振り向いて)、わたしを力づけ すぐれて大なるものとしてくださるでしょう」(詩編71編21節)。

「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」(ルカによる福音書22章33節)は偽りではないものの、神の力で勇ましく戦わない主イエスに失望して、ペトロは逃げ去りました。けれども、主イエスは、とりなしておられました(22章32節)。「あなたは立ち直って(向きを変えて)、弟子たちを励まし、貧しい人々、今飢えている人々、今泣いている人々、神の国を待ち望む人々にわたしの言葉を告げ知らせ続けなさい」と、まなざしで伝えられたのです。こうして、ペトロは「自分の十字架を背負ってついて来る者」(14章27節)に変えられたと、生涯、証しをしました。

「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」(ルカによる福音書12章27節、並行箇所マタイによる福音書6章28～29節)。

仙台で暮らしていたころ、四季を通して蔵王、岩手山など東北の山々に登りました。ツアーではガイドを先頭に、初心者をお前、熟練者を後にします。ガイドは分かれ道や危険なところで振り向きませす。そのように、主イエスは、振り向いてくださいます。初期のキリスト者は「この道に従う者」(使徒言行録9章2節など)と呼ばれました。そして、パウロたちは「異邦人の方に行く(向きを変えて行く)」(使徒言行録13章46節など)道に従う一方、大飢饉にあったエルサレム教会の支援活動をしました。紀元後70年、ローマ軍の総攻撃でエルサレムと神殿は破壊され戦いはさらに3年間続きました。キリスト者は、パンとともに主イエスの言葉を携えて、被災者を助けていたと思います。

「前からも後ろからもわたしを囲み 御手をわたしの上に置いていてくださいます」(詩編139編5節)。

登山の楽しみは水や食べ物を分かち合うこと、人と人が心を通わせる絆にもあります。ダビデとサウルの子ヨナタンの交わりは「魂(ヘブライ語・ネフェシュ)の結びつき」(サムエル記上18章1節)、神の息吹で生きる人間本来の姿です(創世記2章7節)。しかし、わたしたちは道を見失ったのでしょうか。

軍事支援を受けた国と大国との市街戦で住民が生命を失い難民となりました。世界は不信で分断して憎悪が燃え広がっています。毎年10月16日は国際連合の世界食糧デーです。昨年の報告では世界の飢餓人口は4600万人増え8億2800万人、「神はどこに」、「愛はどこに」と嘆きが聞こえてきます。キリストの教会と諸団体は「神はどこに」、「愛はどこに」と応え、聖霊と協働して霊と魂と体を救う全人的(ホリスティック)な宣教へと向かうときです。

地域の教会が最前線です。神は、更地に会堂を建てるような取り組みを祝福してくださいます。主イエス・キリストは振り向く神の子(7章9節、44節、9章55節、10章23節、14章25節、23章28節)、わたしたちの行くべき道を示してくださいませ。